

神楽名

こしのお 越野尾神楽

伝承地

越野尾地区
にしめらそん
西米良村大字越野尾

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

越野尾神楽保存会
代表 濱砂 栄一



白稻荷

◆ 神楽の概要・由来・その他

越野尾神楽が継承されている児原稲荷神社は、一ツ瀬川に架かる赤い橋、米良稲荷橋の袂から山道を登った山腹に鎮座する。神社創建の年代は不詳であるが、鎮座の日を養老2年（719）と伝わる。江戸期には米良五社の一つとして領主米良氏の崇敬を受け、例祭には領主の直参、代参があったという。越野尾神楽は、児原稲荷神社の例祭にて奉納される。

銀鏡で門外不出とされていた鶴戸門流神楽を、八重の住人弥吉が禁を破って持ち帰り、伝承した。昭和初期に二軒橋で鍛冶屋を営んでいた濱砂徳次郎が、児原稲荷神社の祭典に楽を入れることを提案し、八重（稲荷神社）に師事する運びとなった。楽だけでは物足りない、昭和6年（1931）に神楽も習い、現在の越野尾神楽の形になったという。

外神屋の辻（注連柱）は神々が宿る神聖なものであるため、祭日の朝に奏楽とともに、米と塩水で清めながら建てられる。神楽序盤に出合内中武家の氏神であり、小春（児原）の山に御神霊お降りの際、道案内をされた道祖神「栗三郎」が出座し、ここから次々と地主神が降臨する。

◆ 芸能の機会・場所

- 越野尾神楽...11月最後の週の土曜日
- 6月に越野尾地区公民館にて「水神男神」「水神女神」を奉納

◆ 演目一覧

【大祭前日】	前夜祭（星祭り）				
【大祭当日】	しめ 遡立て	神迎え	例大祭祭典		
きよやま 清山	花の舞	ぢわり 地割	はさみ 初三舞	くりさぶろう 栗三郎	すみよし 住吉
しろいなり 白稻荷	へいさし 幣差	あかいなり 赤稻荷	山の神	すいじん ちまい 水神地舞	水神男神
水神女神	おおくにぬしちまい 大國主地舞	おおくにぬしのみこと 大國主命	かんすい 神崇	しょうぐん 荘厳	しばこうじん 柴荒神
しばのりと 柴祝詞	ひとりつるぎ 一人劔の舞	つなこうじんちまい 綱荒神地舞	つなこうじん 綱荒神	つなのりと 綱祝詞	つなかぐら 綱神楽
だいじん 大神	いせかぐら 伊勢神楽	たちからおのみこと 手力男命	とやぶりみょうじん 戸破明神	びやっかいきじん 白蓋鬼神	へやのかみ 室之神
かさ 笠はずし	くりお 繰下ろし	じょうぜかぐら 成就神楽	みやかぐら 宮神楽	遡倒し	神送り

◆ 演目の特徴

神々を御神屋にお迎えする前には、場を清め、結界を張り、地霊を鎮める素面の舞（地舞）を舞う。「初三舞」「住吉」「幣差」が地舞にあたる。

児原稲荷神社の御祭神「白稲荷」（女面）と対をなす「赤稲荷」（男面）、そして「水神男神」「水神女神」はそれぞれ翁、媪面であり陰陽一对をなす、越野尾神楽独特の演目である。

「笠はずし」は先地と後地に分かれた12人の早乙女（拝観者）に笠を被せ、山の神、田の神の面をつけた祝子が「頭が高い」「尻が高い」と言いながら面棒で頭や尻をなでてまわる。面棒をもって均衡を保とうとする所作は、風雨を穏やかにし、豊作を守護するものであり、稲作儀礼の神楽である。天照大神の神田を暴風雨の害から防ぎ、豊作をもたらす神楽とも伝わる。

◆ その他の特徴

- 面...栗三郎、山之神、水神男神、水神女神、大國主命、柴荒神、綱荒神、大神、手力男、戸破明神、百蓋鬼神（あまほめ）、室之神 等
- 楽...太鼓、横笛、楽板、手拍子（すり鉦）
- 装束...白衣、白袴、裁着袴、素襖、千早、狩衣、着物、御笠、烏帽子、宝冠、ツマドリ 等
- 採り物...鈴、扇、御幣、刀、面棒、櫓、弓矢、榊、膳、テゴ 等
- 文書...「西米良神楽 第3集」（児原稲荷神社）、「米良山の神楽調査報告書」（令和2年(2020)）等

◆ 伝承の現状・課題

昭和17年頃、舞手の減少により神楽はやむなく中止となったが、昭和41年（1966）に氏子による神楽保存会が発足した。若者も多く参加し、17、8名で越野尾神楽が再開された。

平成29年度の國學院大學での神楽公演など、精力的に伝承のための活動を行っている。

令和5年（2023）、神楽保存会には約15名が在籍。同年、国の指定を受けたことを機に、まずは西米良村役場の職員などに越野尾神楽の魅力を説き、神楽に関わる人を増やす努力をしている。



神崇



荘巖



室の神